

中野市水道事業運営審議会 会議録（要旨）

日 時：平成24年8月8日（水）午前9時～10時17分

場 所：中野市市民会館42号会議室

出席者：委員（敬省略）原信重、小林貴三子、田川正和、島田君子、高橋剛太朗、
清野竹子、宮寄三雄

事務局 小林建設水道部長、山岸上下水道課長、吉池下水道係長、
奈良上水道係長、池田営業係長、池田監理係長、
有賀主査、小林主査、石川主任主事

- 1 開 会
上下水道課長
- 2 挨拶
建設水道部長
- 3 上下水道事業の概要説明
監理係長

○質疑応答

【委員】

水洗化率が全体で82.6%であり、特に農業集落排水施設が低いがその理由は何か。

【事務局】

大俣、科野、倭地区などは近年施設を整備したところであり、年々水洗化率は上がってきているところである。最近の施設の水洗化はこれからなので、水洗化の普及を地域の皆様をお願いしたい。

【委員】

水洗化の整備に伴う補助制度はあるのか。

【事務局】

排水設備工事の増改築に対して利子補給の制度があり、上限はあるが供用開始3年間は全額、3年を過ぎると2分の1を利子補給しているところである。

【委員】

制度があるのだから、推進月間などを設けて推進していただきたい。

【委員】

資料の4ページで角間ダム建設の記載があるが、水道ビジョンとの整合として

角間ダムの建設は必要なのか。不必要なのか。

【事務局】

水道ビジョンの13ページのとおり、角間川流域協議会でダムあり、ダムなしの両論併記で提出されており、県の動向を注視しているところである。

【委員】

中野市単独としては、人口の減少等により給水量も減るため、当面は角間ダムの水を求めなくてもよいということか。

【事務局】

人口については減少しているところである。また水道ビジョン27ページの水道事業の課題では、「角間ダム建設が休止中であるため、既有認可水源で運用していますが、給水量が水源水量を越える時は予備水源からの取水により不足分を補っています。角間ダム建設の休止期間中は予備水源を含めた水需要計画に沿った取水計画の立案が課題」としており、田麦浄水場系の古牧東・西水源の取水量も減少していることから、角間ダム休止中は、予備水源である地下水を活用して安定供給のため取水量を確保していきたい。

4 協議事項

(1) 会長の互選並びに会長代理の氏名について

田川正和委員を会長に選出

小林貴三子委員を会長代理に指名

5 市長諮問

「平成25年度から平成27年度までの3年間の下水道使用料及び農業集落排水施設使用料について、料金を据え置くこととする。」

諮問内容について事務局説明

○質疑応答

【委員】

普及率と水洗化率の違いは。対象人口とは何を指すのか。

【事務局】

普及率は行政区域内人口のうち対象人口の割合であり、対象人口とは下水道が整備されている区域内の人口のことである。

水洗化率は対象人口である区域内人口のうち、下水道を接続している人口の割合である。

【委員】

処理区域内に入っていない地区はあるのか。

【事務局】

裕地区や奥手山地区等は、合併処理浄化槽となっている。

【委員】

市営住宅で東山団地、泉団地、長元坊団地は水洗化になっていないと聞いたことがあるがどうなのか。

【事務局】

市営住宅のうち東山第1団地のみ下水道を整備していない状況である。これは建て替えの計画があるため、未整備となっているものである。

6 その他

次回審議会の開催について（上下水道課長）

8月23日（木）午前10時から市民会館47号会議室で開催したい。

（その後、午前9時からに変更）

○質疑応答

【委員】

市長への答申は次回の審議会の開催日に行うのか。

【事務局】

別の日に会長と会長代理でお願いしたいと考えている。次回の審議会で答申をまとめていただきたい。

【委員】

処理水量と有収水量の差を教えてほしい。

【事務局】

下水道の管に雨水などが入ってしまうので、メーターで計った有収水量よりも処理水量が多くなるということである。

7 閉会（会長）